



平山 周一

脳神経外科部長、脳血管内治療科科長、脳卒中センター科長 専門は脳神経外科

脳の血管の壁は、3枚の膜が重なってできています。このうち真ん中の膜は「中膜」と呼ばれ、血管の強さや弾力を保つのに大切な役割を担っています。

この中膜が生まれつきもろかったり、高血圧のため中膜に負担がかかったり、喫煙によりニコチンが血管に付

着したりすると、もろくなった部分から血管がふくらみ、数年間かけて脳動脈瘤ができてきます。脳動脈瘤を持って

いる人の割合は、おおむね成人の5%といわれています。

死亡率30〜50%の恐ろしい病気です。破裂は突然起こりま

す。前兆があれば、その時点で治療をすればいいのですが、ほとんどの場合は前兆があり

ません。破裂率は、特殊なものを除けばおおむね年間0・5〜3%です。

破裂を防ぐ治療

ほとんどの脳動脈瘤は無症状です。しかし、風船のように、こぶが

ふくらむのに伴って血管の壁は薄くなり、限界を超えると破裂する

ことがあります。脳動脈瘤は、脳を包む「くも膜」の下にできるの

で、破裂するとくも膜下出血になります。死亡率30〜50%の恐ろしい病気です。

脳動脈瘤



無症状のまま前兆なく破裂

脳動脈瘤は発生や破裂の予防が大切です。まずは高血圧にならないことです。高血圧は脳動脈瘤ができる原因の一つで、破裂率もアップさせます。減塩や

体重の減量で血圧を下

降圧や禁煙で予防

脳動脈瘤は発生や破裂の予防が大切です。

冒頭で「血管の中膜が生まれつきもろい場合がある」と述べました。つまり体質です。

体質ですから遺伝することがあります。肉親の人に脳動脈瘤があった場合は、検査を強くお勧めします。

危険性や年齢も考慮して、どの方法が適しているかを判断します。

脳動脈瘤が小さかったり、破裂率が低い位置にありたりする場合、治療の必要がないと判断することもあります。その場合も約1年ごとに、MRIなどを使ってこぶの大きさの変化をチェックします。

手術には開頭術とカテーテル術があります。脳動脈瘤の位置や大きさ、形などから破裂率を推測し、手術に伴う

手術には開頭術とカテーテル術があります。脳動脈瘤の位置や大きさ、形などから破裂率を推測し、手術に伴う

量の飲酒もよくありません。1日1合以上は控えるべきでしょう。脳ドックを受けるのも良いでしょう。脳動脈瘤は破裂するまで症状がないわけですから、ドックでこぶの有無をチェックすることは非常に有効です。